

今日のキーワード 『街角景気』は現状が悪化、先行きは改善

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手や小売店、メーカー、輸送業、広告代理店など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。2019年1月の『街角景気』は、暖冬や世界的な景気減速懸念等から、足元の景況感を示す現状判断指数(DI)が悪化しましたが、景気の先行きを示す先行き判断DIは、大型連休への期待等から改善しました。

ポイント1

現状判断DIは前月比▲1.2ポイントと2カ月連続で悪化 先行き判断DIは2カ月ぶりに改善

- 2019年1月の『街角景気』によると、現状判断DI(季節調整値)は前月比▲1.2ポイントの45.6でした。景況感の悪化は2カ月連続です。水準は13カ月連続で景気判断の節目となる“50”を下回りました。
- 項目別では、企業動向関連、雇用関連のDIは前月比で上昇したものの、家計動向関連のDIが低下しました。家計動向関連のなかでは、小売関連や飲食関連の落ち込みが目立ちました。
- 一方、先行き判断DIは前月から+1.5ポイント上昇の49.4と、節目の“50”を下回っているものの、2カ月ぶりに改善しました。項目別にみると、家計動向関連、企業動向関連、雇用関連の3項目とも上昇しました。

ポイント2

景気にネガティブな単語の使用頻度が更に増加 「暖冬」、「消費税」、「株安」といった単語が目立つ

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法(*)によると、ウォッチャーの現状判断に関するコメントからは、ネガティブな単語の使用比率が2カ月連続で大きく上昇しました。一方で、ポジティブな単語の使用比率も2カ月連続で減少しており、ウォッチャーの景気スタンスが一段と悪化したことが窺われます。
- 1月は「暖冬」による冬物衣料の売れ行き不振などの一時的な要因に加え、「消費税」や「株安」への漠然とした警戒がウォッチャーの景況感を押し下げたとみられます。

(*) テキスト(文書)をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な例として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。



今後の展開

大型連休や改元などのイベントに期待

- 内閣府は景気ウォッチャー調査の基調判断を、「緩やかな回復基調が続いているものの、一服感がみられる」と据え置きました。先行きについては、「海外情勢等に対する懸念もある一方、改元や大型連休等への期待がみられる」としました。先行き判断をテキストマイニングで分析すると、「大型連休」や「改元」等のイベントに関する単語の使用頻度が目立って増加しており、明るいイベントへの期待感が、ウォッチャーの先行きの景況感を支えていることがわかります。今後控える大型連休や改元等のイベントに期待したいものです。

ここも
チェック! 2019年2月12日 『オフィスビル空室率』は6カ月連続の低下
2019年2月 7日 ベアに捉われない今年の『春闘』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。